

(浪速支部)

「深い学びに向かう子どもの育成」
—わかる・楽しい・考える授業をめざして—

大阪市立敷津小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、主体的・対話的で深い学びに誘うための理念である「学び合い」に3年間取り組み、児童同士の聴き合う関係を大切にし、互いの考えを聴きあい、考え方の違いをすり合わせることによって、一人一人が自分の考えに磨きをかけ深めていく授業づくりに取り組んできた。そして、授業だけでなく、学校生活のあらゆる場面で仲間とつながり、大切な学びの場にする事で、すべての子どもが「安心して取り組める学び」の視点は共有できた。何より、以前と比較しても教室内は落ち着いた雰囲気となり、子どもの学びに向かう姿勢は格段に改善した。

そして、今年度の研究は、子どもが落ち着いて学習できる環境が整えられたので、次のステップを踏むために、そして、子どもの学力をよりつけるために、学びの柱となる「教材研究」に重点を置くことにした。また、文科省の資料に「深い学び」の一例として「事象から自ら問いを見出し、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程」とあるように、「深い学び」に向かうために、もう一度自分たちの授業を見直すべく、研究テーマを「深い学びに向かう子どもの育成～わかる・楽しい・考える授業をめざして～」とした。

2. 研究の趣旨

聴き合う関係を作るために、学級や授業で取り組んでいることを共有した。

また、深い学びのある授業とはどんな授業なのか、子どものどんな姿なのかについても考えた。「思考を促す授業」「規則性を見つけること」「これって一緒なのではないかという類似、比較」「気づきを得るためには、時間も必要なのでは」と考えを出し合い、見通しをもった。

教員も「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう、授業の内容は自分で決めたり、個人の研究テーマを決めたりした。

毎月の「研究の日」の研修内容は、授業者が提案する。教員全体で深めたい内容や考えたい内容を授業者が提案する形をとることで、自分の授業実践から学びをふり返り、教員全体の学びとなる内容研修を工夫していく。

さらに、外部講師にもお越しいただき、教材研究や深い学びについてご教授いただく機会もつくった。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 主体的・対話的で深い学びの「深い学び」の部分

主体的・対話的な学びをベースに、協同的学び、探究的な学び

視点② 目指す到達点はどこなのか、深めるためにどうするのか

どのような学びが深い学びの状態なのか、共に考え、深い授業研究をする。

視点③ 子ども主体の授業とともに、「わかる授業」への深い教材研究

- ・チーム学年での取り組み
 - ・子どもの思考に働きかけるような問いかけ、課題
- 「子どもが何を学ぶのか」「何がわかるようになるのか」を明確にもつ。

視点④ 取り組み内容の共有

- ・経験の浅い教員の育成、新転任でも実践できるようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

「教師の子どもに寄り添う姿勢の変化」

子どもの表情や発言をみとる力や、子ども一人一人をよく見て、耳を傾け、温かく寄り添う姿勢が身についたと考える。

「深い学びは、主体的対話的な学びの先にある」

深い学びに至るためには、聴き合う関係が土台としてあり、主体的対話的な学びが不可欠だと考える。

(2) 今後の課題

- ・子どもの選択肢の第一が教師になっていることがまだあるので、教師や支援者の関わり方を考えていく。子どもを信じて、子どもに委ねていくこと。子どもに自己決定する機会をしっかりとつくっていくことが必要である。
- ・児童の自己肯定感を高めていくこと。ペアやグループで聴かれる権利が保障され、一人一人が大切にされるケアと支え合いの関係を教室の中にしっかりと築き、自己肯定感を高めていく必要がある。
- ・教科の本質にせまる深い教材研究。質の高い授業を目指し、学習内容の活用・応用や拡大・深化が図れる課題や探究的な課題についてさらに研究を深める。
- ・家庭学習の習慣。授業のふりかえりをするすることで、確かな学びや、深い学びへのきっかけとなるよう、さらなる工夫や家庭との連携が必要。